

第2回「対人援助学会」ワークショップ 企画2

企画2 企画代表；望月昭（立命館大学）

●時間；11月6日 14:40-16:10

●場所；Dセッション会場（立命館大学敬学館264）

●タイトル；

学会を100倍利用する方法：『対人援助者』が学会・学会誌で発表する意味

司会 望月昭（立命館大学文学部・応用人間科学研究科）

話題提供：1) 望月昭（立命館大学）

「対人援助学研究・実践の倫理としての発表」

2) 桂木三恵（愛知県心身障害者コロニーはるひ台学園）

「当事者と援助者のための継続的発信の意味」

3) 渡邊修宏（水戸総合福祉専門学校）

「利用者主体の援助」にかかわる実践者と研究者の研究的課題

指定討論： 神山努（茨城県発達障害者支援センター）

●趣旨

対人援助の研究・実践とは、「援助者」がその実践において対象者に影響を与えた自らの役割を、社会に公表し評価を確認することで、その内容を恒久的に社会に配置することを要請すること（「援護」）ができます。その意味では、公表・発表とは、対人援助学において最も優先すべき倫理的行動であるとも言えます。さらに発表という行為は、援助者が自らの対人援助実践の継続を可能にするためのセルフ・マネジメント行動であるとも言えます。当学会の学会誌である「対人援助学研究」のスタートにあたり、実践場面の一線で奮闘されている実践・研究者の方々を交えて、大会や論文による発表行動の意味について再確認したいと思います。